

活動報告書 2009

長崎大学エコマジック



はじめに

今日、様々なメディアを通じて「環境問題」という文字をよく目にするようになりました。その指し示す範囲は年月を経るにつれて、広く、そして複雑になっている事に間違いがないように思われます。

国際的な取り組みを見ても、2013年以降の地球温暖化に対する取り決めに示す「ポスト京都議定書」の交渉が流動的となっています。今後さらに活発な協議を重ね、より良い地球環境を築くための指針の提示を期待したいところです。一方、私たちの生活においても数年前と比べると格段に環境意識が高まっている事を実感することができます。マイ箸やマイバックの利用の普及や、省エネ運動の強化など、「小さな行動が私たちの将来を変えていく」という事を多くの人が認識していることに意義があるように思われます。

我々エコマジックも、学園祭で廃棄されるごみの減量化という小さな目的をきっかけとし、明日の地球環境を少しでも変化させる事のできる歯車になりたいと考え、日々の活動に力を注いでいます。今回も、例年通り報告書という形で1年間の活動をまとめました。この1冊で我々の活動の全てをお伝えすることは難しいですが、部員全員の力を合わせ作成しました。文章表記など分かりづらい点も多くありますが、私たちの環境に対する熱い想いを少しでも知って頂ければ幸いです。

代表 佐藤龍平

目 次

はじめに	P 1
エコマジックについて	P 3
DRP 班	P 4～6
トレー班	P 7～8
ごみ班	P 9～11
堆肥班	P 12～13
その他の取り組み	P 14
収支報告	P 15～17
編集後記	P 18

エコマジックについて

エコマジック設立経緯

エコマジックが結成されて7年目、前身の団体が設立されて10周年という節目を迎えることが出来たが、エコマジックが今日の団体の形になった経緯を追っていく。

今から10年前の2000年に長崎大学学園祭のごみ廃棄の状況を知り、2つの団体が活動を始めた。2000年9月に「Dish Return Project」がDRPチームを発足させ、同年11月に「エコまるクラブ」が長大祭にて、ごみの14分別展示と分別を、2001年にはリサイクルトレーの導入や割り箸などのリサイクルに取り組んだ。

この2つの団体が、互いの活動をより向上させ、また多くの人に浸透させるための共同企画という形で「エコマジック」を立ち上げた。

エコマジック始動時は、DRP・生分解性トレーの普及、ごみの分別、生ごみの堆肥化、My箸キャンペーンといったプロジェクトを行っていた。それと共に学園祭だけの活動で終わらせる団体ではなく、その他さまざまな環境活動へとつなげていくことを念頭に置き活動を開始させた。

現在では、長崎大学学園祭運営委員会や各学部祭実行委員会と協力して学園祭でのごみ分別の徹底と環境に負荷の少ない食品容器の出店店舗に対する使用の義務付けなどの活動に発展している。

また昨年度に長崎大学の全学サークルの登録をして、今後新たな活動を行う基盤を作ることが出来た。

エコマジックの4つの班

今年度エコマジックでは、2009年5月30日～31日に行われた鴻洋祭と11月20日～22日に行われた長大祭という、2つの長崎大学学園祭での活動を最大の目的としている。この中でスムーズな運営を行うため、また、分野ごとにある程度深い知識を持って活動する為に、「DRP班」「トレー班」「ごみ班」「堆肥班」という4つの班を設けている。

ここでは、各班の大まかな活動の内容を書く。尚、各班の取り組みの詳細については班ごとのページで取り扱うこととする。

① DRP班

DRPとはDish Return Projectの略である。これは市販されている使い捨てトレーを食品販売時に使用せずにプラスチック製の容器を使用しようというもので、この容器はエコマジックが回収し、洗浄・消毒したのち食品販売時に再度使用する。

② トレー班

DRPシステムの物理的な限界を補うために生分解性トレーを店舗に対して販売している。

③ ごみ班

長崎大学学園祭期間中に出るゴミをすべて管理している。長崎大学文教キャンパス内にエコステーションを設置して分別を行う。

④ 堆肥班

学園祭で発生するゴミのうち、生ゴミと生分解性トレーを構内のある堆肥場において堆肥化している。

DRP 班

活動目的

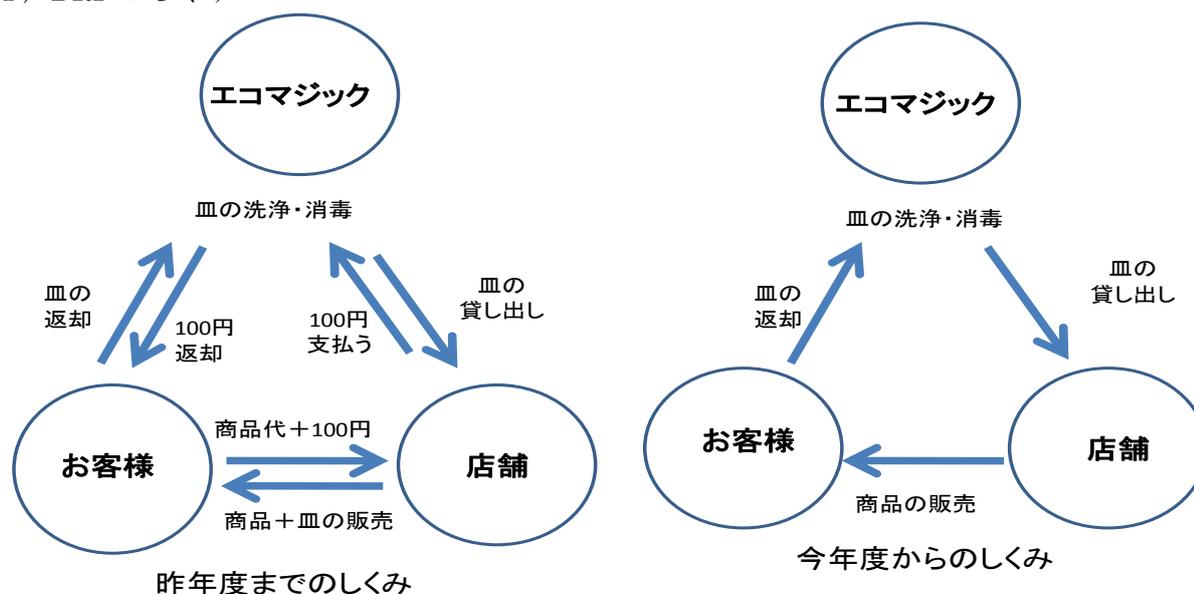
DRP 班では、現在一定数の学園祭の模擬店実施店舗（以下、「店舗」とする）に無料で皿を貸し出している。この際に貸し出すのは洗浄によって複数回の使用が可能なプラスチック皿である。店舗はその皿に料理を載せ販売し、お客さんに使用済みとなった皿を持ってきて頂き、最後に我々が洗って再び店舗に貸し出すというサイクルを形成している。これにより本来店舗で使用される紙皿などの使い捨てを減らし、結果としてごみを減らすことに成功している。また学園祭直前に行われる食品衛生説明会の中で DRP の説明をし、参加していただいた店舗には専用の看板を配布し、その店舗のエコアピールにつながるようになっている。

班の活動目的としては、第一にリサイクルをできるだけしないようにするというのがあげられる。リサイクルは環境活動の代名詞として扱われることが多いが、リサイクルそのものにも回収や運搬をする際に環境負荷につながるさまざまなエネルギーが必要となる。つまり、リサイクルとはある意味では本末転倒であるということになる。そのため我々は、リサイクルが必要なごみを出すことになるのであれば、最初からごみを出さない、もしくはその絶対量を減らすようにすればいいという考えで DRP の使用を奨励している。

また DRP には前述した環境負荷の軽減やそれを使用することによるエコアピール、ほかにも食品容器コストの削減や、使用済み容器の処理にかかる手間を省くといった店舗側のメリットもある。こうした事実を広めるのも我が班の目的といえるだろう。

活動概要

(1) DRP のしくみ



DRPとは大量の食品容器のゴミが排出される学園祭などで、使い捨てトレーの代わりに再利用可能なプラスチック製のお皿を使ってもらおうという活動である。店舗にお皿を貸し出し、使用されたお皿を利用した人から回収する。回収されたお皿はエコマジックで洗浄・消毒を行い、再び貸し出すというシステムで行っている。繰り返し利用が可能な食品が多く扱われる長崎大学学園祭においてはトレーを使わない分、ごみの減量につながっている。

また今年度からは長崎大学学園祭において、より多くの店舗にDRPのお皿を使っただけ、環境に対する意識を高めてもらおうと、昨年度までは100円で貸し出していたものを今年度は無料にして実施した。

(2) 今年度データ

1. DRP 使用店舗について

鴻洋祭	全店舗数（食品販売）	・・・	7店舗
	DRP 使用店舗	・・・	6店舗
長大祭	全店舗数（食品販売）	・・・	83店舗
	DRP 使用店舗	・・・	17店舗

2. DRP 回収率

鴻洋祭

長大祭

	鴻洋祭前	鴻洋祭後	回収率		長大祭前	長大祭後	回収率
皿 S	493	493	100%	皿 S	665	563	85%
深皿 S	278	278	100%	深皿 S	292	282	97%
皿 M	482	474	98%	皿 M	482	586	122%
深皿 M	322	319	99%	深皿 M	327	323	99%
どんぶり A	280	264	94%	どんぶり A	303	281	93%
どんぶり B	105	105	100%	どんぶり B	105	138	131%
おわん	94	93	98%	おわん	104	100	96%

※鴻洋祭後と長大祭前での皿の増加は、新しく皿を増やしたためである。

3. DRP 無料化について

昨年度までのDRP利用率が思うように上がらなかったため、今年度はデポジット制をやめ、皿を無料で貸し出すことにした。鴻洋祭で試験的に皿を無料で貸し出してみたところ、回収率はそれほど悪くなかったことなどの理由から、議論を重ね長大祭で実行可能と判断した。デポジット制をやめると、利用率が上がるというメリットがある。しかし、回収率が下がる恐れがあるのも事実である。規模の大きな長大祭の方が、回収率が下がる危険性が大きいため、学園祭ではそれを防ぐためにDRP貸し出し証の発行と、エコステーションでのDRP回収を行った。また、DRP貸し出し証の発行によって、営業を終了した店舗のDRPの返却し忘れを予防することができた。また、エコステーションでの回収でお客さんがDRPをより返却しやすくなったと考えられる。とはいえ、上の表を見てもらえば分かるが、長大祭では皿SとどんぶりAの回収率が低かった。原因としては、DRP貸し出し証の管理が不十分であったことと、いったん店舗側に皿

が渡ると、皿の行方をこちらが完璧に把握するのが難しいということが考えられる。これは反省すべき点である。来年度以降無料化で続けるならば、この点についてさらに対策をねらなければならないだろう。

そして、DRP利用率についてだが、実際のDRP使用店舗が17店舗、使用申し込み店舗が25店舗であった。昨年度までと比べて利用率は上がっており、無料化によって効果があったと言えるのではないだろうか。ただし、今年度は経済祭の同時開催もあったので、全店舗数が増えていたということを考慮に入れる必要があるだろう。

4. 考察

DRP無料化によって利用率は増加したものの、回収率100%を達成できなかったものもある。これは、劣化によって割れたり、ひびが入ったりする皿を取り除いたためということもある。しかし、それは一部であり、店舗やお客さんから返却されなかった皿が大半である。よって来年度からもさらなる工夫をしていかなければならない。ところで、回収率が100%を超えていたものもあり、これは今年度以前にDRPを借りていた店舗が全ての皿を返却しておらず、今年度まとめて返却したということが原因ではないかと思われる。やはり、エコマジックが皿の枚数を把握しておくことは重要だと再認識した。来年度以降の皿の確実な枚数確認の必要性を感じた。

次に、毎年話し合われるDRP洗浄時の水の処理についてだが、長崎大学の外の排水溝に流れる水は下水処理されないということが分かっている。よって、殺菌用の塩素が入った水や、界面活性剤が入った洗剤を流すと、そのまま浦上川に流れてしまう。それは水質の悪化につながるのだから、何か対策をしなければならないのだが、設備不足ということもあり、毎年完璧な対策はとれていない。今年度はできる限りの対策として、EM液体石けん（界面活性剤不使用）を使用したこと、塩素の入った水や油や食べかすが入った水については、建物内の下水道につながっているところに流すということを行った。ほかの方法も考えたが、どうしても金銭的に不可能だったのでやむをえなかった。

来年度以降、これらの課題をより改善していければさらに意味のある活動ができるだろう。

反省と今後の取り組み

2009年度のエコマジックDRP班では主に鴻洋祭・長大祭でのDRP（Dish Return Project）の中心として活動した。その中で、皿の洗浄における衛生問題、皿の乾燥場所、排水問題、使用する洗剤についての反省点が見つけられた。

使用する洗剤については今まで市販されている化学洗剤を使用してきたが、来年からは天然素材、具体的には重層とクエン酸を併用して、皿の洗浄に当たれば、洗浄能力を低下させることなく、環境サークルとしてより環境に配慮した活動ができるのではないかと感じられた。

また皿の洗浄については現在設備不足などの理由から、衛生面において十分な対策がとれているとは言いがたい。できる限りの衛生面の対策はもちろん行っているが、皿の保管場所や洗い場といった設備があれば、さらに質の良い活動ができるのではないだろうか。その他の反省点については準備の段階での行動を迅速にすることでほとんど解決または改善できるのではないかと考えている。

以上の反省を踏まえ来年度も活動を続けたい。

トレー班

活動目的

長大学学園祭では店舗の出店規約で DRP 班のプラスチック皿又はトレー班の販売する生分解性トレーのみ使用が許可されている。生分解性トレーは、土に埋めると堆肥になるため各店舗に使用してもらうことで長大祭全体のごみ減量につなげる。鴻洋祭は規模が小さく、DRP のみでまかなうことが可能なため、トレーの販売はしていない。しかし長大祭は店舗数が多く、DRP だけでは全てを賄うことができないので、DRP と生分解性トレーを併用している。

活動内容

トレー班は主に長大祭で活動している。長大祭前にトレーの説明会と展示会を行い、各店舗からの注文を受ける。長大祭当日には、トレーの当日販売を行い、違反のトレーを使用している店舗がないかどうかを監視する。生分解性トレーは市販のトレーに比べて価格が高いため、店舗の負担になる。しかし、ごみが多量に出る学園祭では、環境面に配慮するため、各店舗に理解を得て生分解性トレーを購入してもらっている。その中で、出店規約に違反して環境負荷が大きい市販のトレー（違反トレー）を使用している店舗がいた場合は、公平を保つため、違反トレーの使用をやめてもらい、生分解性トレーを購入してもらっている。また、使用済みのトレーはエコステーションというごみ箱で回収をし、学内にある堆肥場に埋めて堆肥化をしている。

※生分解性トレーの原材料はアシ、竹、バガス（サトウキビの搾りかす）である。生分解性トレーは水や油に強く、分解性に優れており、土に埋めると堆肥にできる。また、焼却をしないので二酸化炭素の発生を抑え、環境ホルモンやダイオキシンの発生することもない。以上の点から生分解性トレーは一般のトレーと比べて、環境に優しいということが言える。ただし、購入から 2 年が経過したものは、衛生面を考慮し廃棄している(土に埋めて堆肥化している)。

●年間活動スケジュール

9月	去年のあまりのトレーを数える エコ学園祭ネットワークに登録、仮注文書を提出。
10月	企業にトレーを本注文。(1回目) 販売準備 食品安全説明会での説明、展示会
11月	今年の長大祭の出店舗数が決定 企業へ追加注文(2回目) 各店舗からの事前注文 企業へ追加注文(3回目) 販売準備
長大祭当日	当日販売、返品・返金、違反トレーの取り締まり
12月	余ったトレーを数え、保管または廃棄

●トレー枚数使用状況

	フットパック	おわん	カップ	角トレー	丸皿	カレー皿	紙コップ
2008年のあまり	1250	610	850	1740	800	950	1030
購入枚数	5150	7000	1600	1400	4200	2150	15000
使用可能枚数	6400	7610	2450	3140	5000	3100	16030
使用枚数	5400	4360	1700	2290	2900	3000	9280
2009年のあまり	1000	3250	750	850	2100	100	6750

※袋の破れやよごれによる廃棄などもあるため、数値に多少誤差あり

今年、エコ学園祭ネットワークを通じて企業（株式会社エコ・アイ）から、3度にわたってトレーを購入した。1回目は、去年の店舗数と使用枚数をもとに今年の使用枚数を推定し、注文した。2回目は、今年の店舗数から使用枚数を推定し、追加注文した。3回目は、店舗からの注文を受けて、再度追加注文した。エコ学園祭ネットワークと長大祭の時期が一致していないことや、基本追加注文は受け付けられないこと、また、購入から販売まで準備がかかるため10月という早い時期に推定でトレーを購入した。しかしこれは、トレーが大量に余ったり廃棄がでたり、収支がマイナスになる原因となった。また、トレーを推定で購入したことで、種類によって用意した枚数に差があるため、学園祭当日に種類によっては足りなくなる可能性があった。購入先や購入時期について検討が必要である。

また、今年購入し余ったトレーは、来年度に繰り越す。ちなみに、紙コップは、昨年度のあまりと今年度購入したものの2種類あった。昨年度のものは生分解性トレーではないため、可燃ごみとして処理した。

●収支状況

購入	-438,841
事前販売	374,750
当日販売	71,000
返金	-98,450
計	-91,541

今年の収支は、大幅にマイナスとなった。その原因は、上で述べたように、トレーを推定で大量に購入したことによって購入費が大きくなったことが主に挙げられる。また今年の長大祭は天候に恵まれなかったため店舗の売上が伸びずトレーの使用が少なかったため、店舗からの返金が増えたとも考えられる。

反省と今後の取り組み

長大祭では、展示会を食品衛生説明会の後に実施した。場所が狭かったことや、エコマジック側の準備不足や知識不足があり、スムーズにいかなかった。また、この時期にはまだメニューが決まっていない店舗も多いため、トレー購入について検討してもらうのは難しい。場所や時期など、改善が必要である。

学園祭当日には、違反トレーが6件見つかった。改善してくれる店舗もあったが、中には違反トレーを使い続ける店舗もあった。また、今年初めて経済祭が合同だったため、各店舗への説明不足や店舗側の理解不足があった。違反トレーと使用店舗を早期に見つけるため、エコマジック内での連絡も重要である。

今後は、トレーの購入先や時期、質、価格などを見直し、店舗のニーズに応えられるようにしたい。

ごみ班

活動目的

エコマジックでは毎年、学園祭においてごみの分別回収を行っている。この活動により、学園祭で出たごみを可燃、不燃、資源ごみ等に確実に分別し、来場者の方々に正しい分別について知ってもらうだけでなく、リサイクルに対する環境意識の向上を目的としている。

活動概要

●鴻洋祭に関する活動

主に、鴻洋祭期間中に出るごみがきちんと分別されているかどうかをエコステーション(※)でチェック、集めたごみの業者への引き渡しなどを行った。

エコステーション設置にあたりお客さんや店舗が分別しているかをしっかり確認できるようにするため、事前にごみ箱封鎖願を提出して、期間中はごみ箱にふたをし、エコステーションに捨てにきてくれるようにした。期間中に集めたごみは、ごみ処理委託を依頼した回収業者に引き取ってもらうまで大学の敷地内の一部を借りて、そこに分別したまま集めておいた。

●長大祭に関する活動

主に、長大祭期間中に出るごみの分別チェックや、集めたごみの引き渡しなどを行った。加えて、食品安全管理説明会でごみの9分別の仕方などを説明した。

鴻洋祭と同様に、エコステーションを設置して部員が分別チェックを行ったが、今回は事務的な理由から今まで分けていたアルミ缶とスチール缶を統一して集めるなど、9分別でという新たな方式で分別した。

期間中に集めたごみは業者が来るまで敷地内の一部に集めておき、その後業者に引き取ってもらった。エコマジックは毎年期間中のごみの総重量を調べているが今年のごみの計量をより素早く行うために体重計を購入し使用した。また今年の長大祭は経済祭も合同で行われたのでそちらのごみ分別も行った。

※エコステーションとは

エコステーションとは長大祭期間中などに設置するごみ捨て場の名前である。ここでは学園祭の来場者に対して、その場に待機している指導員がごみの分別指導を行う。

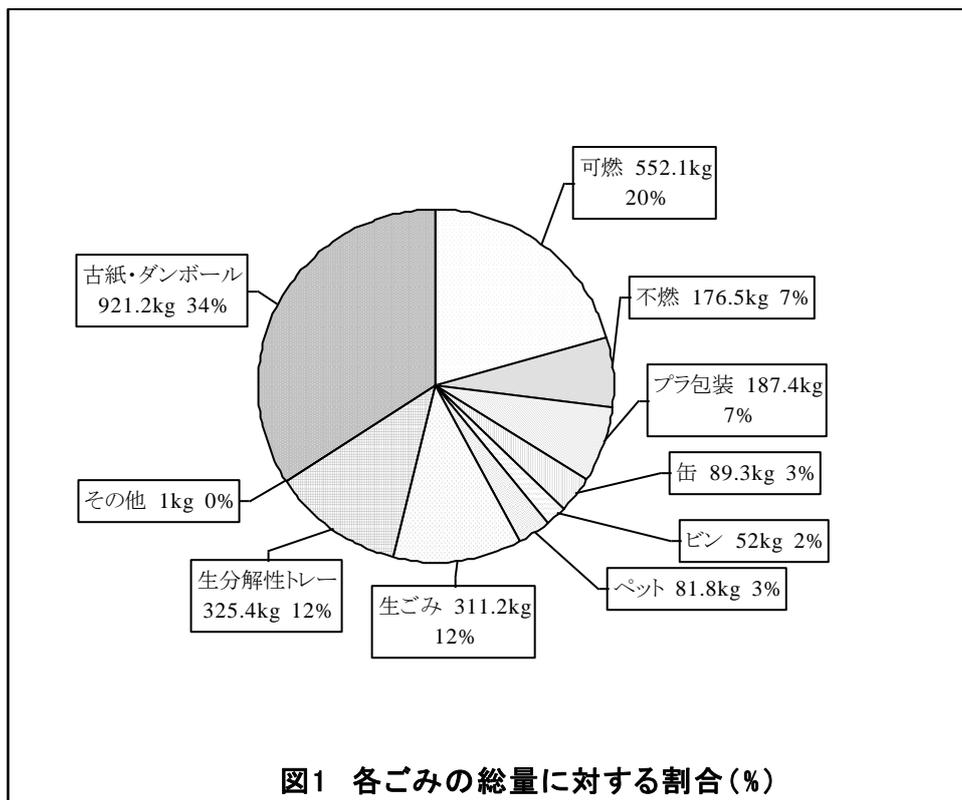
指導員になるのは主にエコマジック部員や学園祭運営関係の方々に、事前にそれぞれ担当する時間や場所を割り振っておく。エコマジック部員以外の方にも手伝ってもらう理由としては、各個人が意識して分別を行うことで、各自の環境意識をより向上させるためである。また、各店舗からのごみについても、開催期間中ここでチェックを行う。

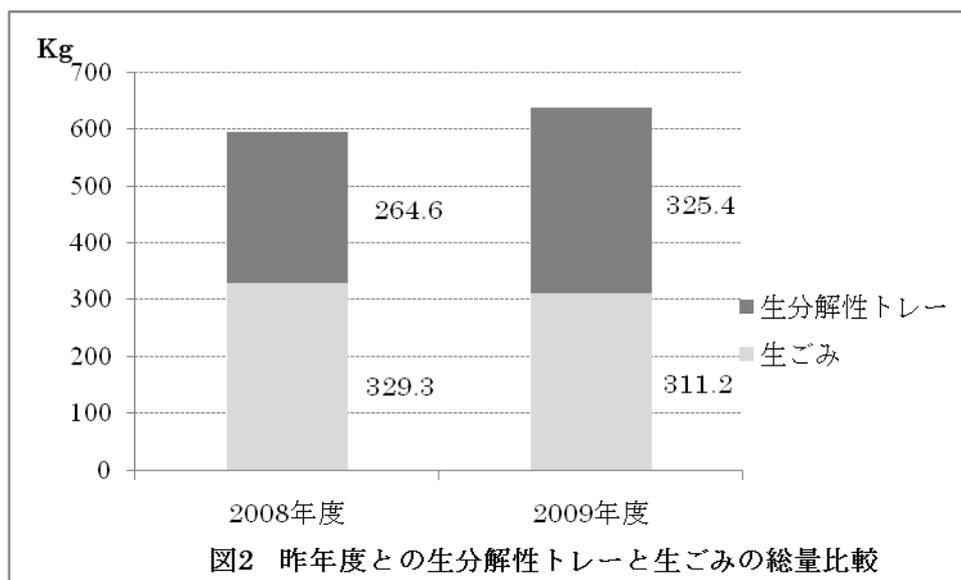
データ

去年同様、2009年の長大祭（11月20日から22日の3日間）におけるごみの量の計測を行った。計測結果は以下の通りである。（表1参照）

	1日目	2日目	3日目	合計
可燃	104.5	166.3	282.3	553.1
不燃	15.3	40.1	121.1	176.5
プラ包装	26.6	70.6	90.2	187.4
缶	11.5	37.9	39.9	89.3
ビン	1.7	23.5	26.8	52
ペット	10.2	28.9	42.7	81.8
生ごみ	35.9	93.9	181.4	311.2
生分解性トレー	64.8	121.9	138.7	325.4
古紙・ダンボール	回収業者にまとめて計量してもらった			921.2
総量	270.5	583.1	923.1	2697.9

表1 09年度長大祭におけるごみ計測結果





- * 軽量には「ばね秤」及び「デジタル体重計」を使用し、小数点2位以下は四捨五入した
- * 生ごみと生分解性トレーは堆肥化がなされるため、可燃ごみとは区別して計量した
- * 「缶」の項目にはアルミ缶とスチール缶を含む

●表1、図1、2より

ごみを種類別に見ると、その量は全ての種類で日ごとに増加していることがわかった。総量も同様に増加しており、2日目は1日目の約2.1倍、3日目は1日目の約3.4倍に増加している。その中でも特に段ボールが多く、可燃ごみ、生ごみ、生分解性トレーがそのあとに続く。この結果で段ボールの量が著しく突出しているのは、多くの企画で段ボールを用いたものがあったことによるものだと考えられる。だが、今年度は経済祭の合同開催により、昨年度よりも店舗数が増加したにも関わらず、約20kgも生ごみの総量が減少している。純粹に対比を行うことは難しいが、喜ばしい結果と言えるだろう。3日間の総量は2697.9kgであるが、大学外に「流出」したごみなどが存在する可能性があるため、それらを加えると、3日間のごみの総量はさらに増えることが予想される。

反省と今後の取り組み

鴻洋祭でのごみの総量を考えずに、長大祭で出たごみの総量の昨年と今年を比べて結論を述べることにする。2008年度の長大祭のごみの総量は1888.3キログラムで、2009年度の長大祭のごみの総量は2706.6キログラムであった。この結果から、2009年度の長大祭では、2008年度に比べ約1トンにもおよぶ大幅なごみの増加という結果になった。この大きな要因として考えられるのは、経済祭の合同開催により人の増加がそのままごみの増加につながったということと、工学祭の企画に使われた大量の段ボールなどが要因となっていることがデータより指摘される。

また反省点としてあげられるのが、店舗側に正しいごみの分別について理解してもらえていないところがあった点である。分別が正しくなければ、店舗チェックの段階でも差支えとなることは間違いない事実であろう。来年度の長大祭では店舗側との連携も大切な要素となってくると思われる。そして、エコステーションについてはごみの入れやすさと、利用者側が分別しやすいような改良が必要と考えられる。

堆肥班

活動目的

学園祭に来られた方たちはおいしい料理を食べたり、イベントに参加して楽しんだりすることができるが、その背後にはごみの廃棄量は増える一方という大きな問題を抱えている。我が班は学園祭の廃棄物の削減のための最終処分の位置の場に立っている。処分といっても、全ての対応を行うことは無理なので、食物残さや生分解性トレーの堆肥化に焦点を当てて活動をしている。「食べ終わった後お皿に残った残物はどうすればいい?」「膨大なトレーのごみをどうすればいい?」となった時に、堆肥班がその処分に務める。もしその残物を集めて土に返して自然界の肥料になれば、環境にも優しいし、ごみ削減の手助けにも繋げることができるからだ。そのために堆肥班は長大学学園祭で出て来た食品残さと生分解性トレーを回収して堆肥化を行っている。また、その堆肥を利用して野菜を栽培したりする活動も行っている。私たち自身も、授業で学んだ環境についての知識を生かして環境のために「自分の小さな力」を最大限に尽くしている。

活動内容

堆肥班とは、長崎大学学園祭で出て来た食品残さと生分解性トレーを回収して堆肥化する班である。廃棄物を有効活用するため、エコマジックのごみ班を通して分別、回収した生ごみと生分解性トレーを堆肥場へ土に還している。堆肥場は長崎大学生協総務部の裏にある小さな場所であるが、リアカーで生ごみと生分解トレーを堆肥場まで運び、スコップを使って穴を掘り、そこに生ごみと生分解性トレーを埋めるといった繰り返しの作業を行っている。

食品残さは堆肥化しやすいように、長崎大学付近の米穀店から頂いた米ぬかをまぶして土に埋め、約2か月に一度切り返しを行っている。また、その堆肥を利用して野菜を栽培したり、廃棄物を削減する取り組みを広めたりする活動も行っている。

●用語について

※切り返し

堆肥をかき混ぜ、底部分を空気に触れさせるという意。堆肥化の進んだ部分と、未分解の部分を混ぜる作業を定期的に行っている。この作業は堆肥化期間を短縮する大きなポイントとなる。

※ぼかし

米ぬか、オカラなどという生ゴミ発酵促進材。我々は主に米ぬかを使用し、生ごみ、米ぬか、堆肥を1:1:1の量で混ぜている。本来ならばごみとして捨てられてしまうことが多い米ぬかだが、堆肥場で有効活用している。

※追肥

新しい挑戦として、今年は大村市で行われた「ふるさと推進大会」で購入したバイオマス堆肥を追肥した。窒素やリンなど、有機性エネルギーをたくさん含んだ堆肥である。堆肥の熟成率を上げに炭素率を下げる事ために混ぜた。追肥は、理想の完熟堆肥を作り上げるための糧となる。

●堆肥班年間スケジュール

2009年5月12日(火)	米ぬか三袋を取りに行く
5月24日(日)	堆肥場の切り返し
5月28日(木)	堆肥場の穴掘り
5月30日(土)	鴻洋祭 堆肥場にぼかしをまく
5月31日(日)	鴻洋祭
7月4日(土)	堆肥場の切り返し 堆肥場にぼかしをまく
9月27日(日)	堆肥場の切り返し
10月09日(金)	堆肥場の切り返し
10月26日(月)	堆肥用の備品の買い出し、残りの切り返し
11月17日(火)	米ぬか二袋を取りに行く
11月20日(金)	長大祭
11月21日(土)	長大祭 米ぬか二袋を取りに行く
11月22日(日)	長大祭
1月15日(金)	廃棄トレーの埋め立て 堆肥場に追肥する

反省と今後の取り組み

今年の反省点として定期的に切り返しができなかったこと、違反トレーや分解できないごみが混ざっていたこと、米ぬかを長期間倉庫に置いていたためゴキブリが発生したこと、廃棄トレー処分の取り掛かりが遅かったことなどのことがあった。さらに、学園祭当日までにスコップや懐中電灯を補充していなかったため、備品を借りないとならない問題があった。結果的には準備不足や、当日になってから活動においての効率の悪さが浮き彫りとなった。

また、今年の長大祭の一番の反省点は雨対策を十分にしていなかったことである。今年初めて二日以上高降水確率が続いていた。天候を予測はしていたのにもかかわらず堆肥場は雨に打たれ、なかなか穴掘り作業が進まなかった。今後もこのようなことがないようにレインコートなどの補充・ブルーシートの有効活用が必要である。

しかし反対に良かった点もいくつかある。米ぬかを加えたことによって、分解を通常より早く促すことができたのは確かであった。そのおかげで順調に学園祭3日間という短い期間で生ごみや生分解性トレーを堆肥場に埋めることができた。

反省点においては、このようなことがないように改めて全体として見直さなければならない。さらに大きな課題として、分解の促進をより良くするためにも生ごみと堆肥の量のバランスを考えることや、米ぬか以外の新しい肥料の追肥など、常に新しい活動への挑戦を大事にしていきたいと強く思う。楽しく有意義な活動を行うためにも、このように明確な目標と野心を持っていかなければならないと考えている。これは堆肥班としてだけでなく、エコマジック全体としていえることであろう。将来的には、学園祭に来られた方たちが廃棄物の削減と有効利用を實行してもらえるような活動を行っていきたいと考えている。

その他の活動

「川に学ぼうかい in 浦上川」への参加

「川に学ぼうかい in 浦上川」は、2005年8月より浦上川流域に生活・仕事や学校などで関わりのある社会人や大学生を中心に、浦上川の中流部で活動している環境ボランティア団体である。主な活動は、2ヶ月に1度、長靴をはいて浦上川の流れに触れ、川沿いの道路を歩きながらの清掃活動である。また、2009年11月には、大村市で開催された「美しい森林に囲まれた人と環境やさしいふるさと推進大会」において「ゴミゼロながさき優良団体（一般の部）」に選ばれ表彰された。

我々エコマジックは長崎で生活し長崎大学に通う学生として、また環境系のサークルとして「川に学ぼうかい in 浦上川」へ参加し、清掃活動を行っている。



環境シンポジウム～身近な場所から広げるエコ活動

期間 2009年6月27日

場所 長崎総合科学大学

内容 長崎県総合科学大学「ISOの家」主催のシンポジウム。環境に関心を持つ学生や、地域住民の方々が参加し、環境活動を行っているグループの活動紹介や、各グループの代表者達によるパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、「身近な場所から広げるエコ活動」をテーマに、お互いの活動のなかで疑問に感じた部分や、興味を持った部分について話し合うことで、今後の活動の幅を広げることに役立てた。また、シンポジウムの後にも参加者から多くの質問が出されるなど、有意義な時間を過ごすことができた。

第8回 九州環境サミット☆青春風味

期間 2009年8月28日～30日

場所 熊本県立天草青年の家

内容 九州環境サミット（KES）主催で、環境サークルで活動している人や環境に興味を持っている人が集まり、ディスカッションや団体間の交流などが行われた。今回の合宿ではテーマごとに分かれ、フェアトレードなど様々なことについて知識を深めることができた。KESでは、毎年このような集まりが開催され、同じ志を持つ仲間たちと出会うことができる数少ない機会を得ることができる。

平成 21 年度 長崎大学エコマジック収支報告書

長崎大学エコマジック

代表 佐藤龍平

会計 岩元そよ花

預かり金合計	350,000
収入合計	600,438
支出合計	620,297
総計（総計のうち学園祭運営委員会への返金額）	330,141（266,994）

預かり金

項目	金額
預かり金（学園祭運営委員会より）	350,000
預かり金合計	350,000

収入

項目	金額
寄付金	154,388
トレー事前販売	377,550
トレー当日販売	68,500
収入合計	600,438

支出

項目	金額
生分解性トレー購入費用	438,841
生分解性トレー返金費用	98,450
ゴミ処理費用	54,054
諸経費（出納帳分）	28,952
支出合計	620,297

※総計は、学園祭運営委員会からの預かり金と収入の合計より、支出を差し引いたもの。

出納帳

日付	項目	摘要	収入 (円)	支出 (円)	残高 (円)
平成 21 年 9 月 27 日	諸経費	指定ゴミ袋代		120	-120
10 月 7 日	学園祭運営委員会からの預かり金	エコマジック活動費	350,000		349,880
10 月 8 日	トレー代	株式会社エコ・アイ		362,344	-12,464
10 月 14 日	諸経費	アルコールスプレー詰め替え、ポリ袋、ゴム手袋		1,663	-14,127
10 月 14 日	諸経費	ポリ袋		315	-14,442
10 月 16 日	諸経費	ビニル袋、セロハンテープ		1,196	-15,638
10 月 18 日	諸経費	アルコールスプレー詰め替え、ビニル手袋箱、ゴム手袋		1,836	-17,474
10 月 21 日	諸経費	アルコールスプレー詰め替え、ビニル手袋、ポリ袋		1,423	-18,897
10 月 27 日	諸経費	コピー代		896	-19,793
10 月 30 日	トレー代	株式会社エコ・アイ		56,878	-76,671
10 月 31 日	諸経費	ガムテープ		228	-76,899
11 月 3 日	諸経費	コピー代		160	-77,059
11 月 8 日	諸経費	デジタルヘルスメータ、指定ゴミ袋、ゴム手袋		3,416	-80,475
11 月 9 日	トレー代	トレー事前販売	377,550		297,075
11 月 9 日	諸経費	コピー代		1,260	295,815
11 月 10 日	諸経費	せんたくばさみ		105	295,710
11 月 11 日	諸経費	ゴム手袋、軍手		716	294,994
11 月 11 日	諸経費	備品代		5,379	289,615
11 月 15 日	諸経費	ガムテープ		250	289,365
11 月 15 日	トレー代	株式会社エコ・アイ		19,619	269,746
11 月 16 日	諸経費	コピー代		1,000	268,746
11 月 16 日	諸経費	コピー代		400	268,346
11 月 17 日	諸経費	コピー代		300	268,046
11 月 17 日	諸経費	米ぬか		200	267,846
11 月 18 日	諸経費	コピー代		448	267,398
11 月 18 日	諸経費	コピー代		1,500	265,898
11 月 18 日	諸経費	コピー代		2,620	263,278
11 月 19 日	諸経費	ハンドソープ詰め替え		138	263,140

11月19日	諸経費	マスク		1,256	261,884
11月19日	諸経費	PPロープ		105	261,779
11月19日	諸経費	食器洗い用洗剤		336	261,443
11月20, 21, 22日	トレー代	当日販売	68,500		329,943
11月20, 21, 23日	トレー代	返金		98,450	231,493
11月22日	諸経費	備品代		936	230,557
11月25日	ゴミ処理費用	平木工業株式会社		54,054	176,503
11月25日	諸経費	振り込み手数料		420	176,083
12月10日	諸経費	振り込み手数料		330	175,753
12月21日	寄付金	寄付金	154,388		330,141
平成22年 2月24日	学園祭運営委員会への返金	エコマジック活動費の返金		266,994	63,147
計		残金			63,147

編集にあたって

長崎大学エコマジックでは、環境活動に対する取り組みをできるだけわかりやすく皆さんに知って頂く事を目的に、活動報告書を継続的に発行しています。

●対象期間と範囲について

本報告書は、長崎大学エコマジックの2009年度（2009年4月1日から2010年3月31日まで）の活動実績を中心に作成しました。

編集後記

我々は、2007年を「エコマジックの革新の年」、2008年を「エコマジック躍進の年」として活動してきました。そして2009年度は「Eco Magic 弛緩の1年」として我々の活動を、その存在意義から見直してきました。「本当に環境保全のためになっているのか?」「自己満足で終わっていないだろうか?」などといったことを真剣に考えてきました。これまで後ろを振り返らずに突っ走ってきた団体でしたので、張りつめた糸を一度緩めることで、過去と未来の溜めを作る必要性を感じたことから今年を弛緩の年としました。反省する点は反省し、新たな活動の力に変えていくことが今後の我々に必要となっていると考えての取り組みでした。

そのうえでDRP班の皿の無料貸し出しなど、新たな試みを行うことが出来ました。また、これまで内向性だった活動を、外部に出ることにより発展させることにも成功したという実感があります。

また、今年はエコアピールにも力を注いできました。今まで無かったエコマジックのロゴマーク（表紙参照）を作ることで知名度の向上と、ある意味でのブランド化を目指してきました。さらに、新聞に活動を取り上げてもらうなど直接的な広報活動も行うことが出来ました。我々の活動は物理的な規模としては小さいものの、1人1人の意識の中にエコを植え付けることで大きな影響を与えると考えての試みでした。国にも企業にもできない「何か」を私たちは成し遂げられる自信があります。

今年の活動を肥料としてこれまで成長してきたエコマジックの芽をしっかりとした幹へと育てていく決意を持ち、来年度以降の活動へと繋げていきます。最後まで読んで頂きありがとうございました。

最後になりましたが、エコマジック顧問としてご指導頂いた長崎大学環境科学部の武政剛弘教授、長崎大学学園祭運営委員会をはじめとする活動を支援、協力して頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

平成22年2月

編集担当一同

ホームページ

<http://ecomagic21.web.fc2.com/>

本報告書のWeb版

ホームページに本報告書のWeb版を掲載していますので、ご利用ください。

※率直なご意見・ご感想もお待ちしています。

<発行元>

長崎大学エコマジック（2010年2月発行）